

てんかん治療と介助紹介

沼津で 公開講座 看護師が実演交え説明

静岡てんかん・神経医療センター(静岡市)と日本てんかん協会県支部は25日、てんかんの治療法と発作の正しい介助方法を紹介する市民公開講座を沼津市大手町のプラサヴェルデで開いた。約80人が聴講した。

同センターの重松秀夫療養診療部長が「診断と治療の道すじ」と題して講演した。重松部長は「患者数は全国に約100万人いて、誰にでも起こり得る病気」と説明。大脳神

経細胞の過剰な電気的興奮によって発作を繰り返すが、「原因や発作の症状はさまざまで、治療も異なってくる」と強調した。投薬以外にも、てんかんの種類によって外科手術や高脂肪の食事による療法があると紹介した。

同センターの看護師は実演を交えて発作の介助を分かりやすく解説した。発作に遭遇した場合は、騒ぎ立てずに安全な場所に移動させ、経過を見守るよう

説明した。「体を押さえつけたり、口の中に物や指を入れたりしないで」と呼び掛けた。



実演を交えて発作の介助方法を説明する看護師
＝沼津市大手町のプラサヴェルデ